

シリアの未来と一緒に作る仲間の皆様



Special Supporters

小笠原 功雄様・正恵様、小俣 山葵様、Komatsubara Yuko様、Japan Engine Valve Mfg. Co., Ltd.様
【リターンご協力】

株式会社 アレppoの石岐様、フェアトレードのセレクトショップ Love&sense様、
マルシェノスノス様、絵本作家 陣崎草子様

【ボランティア(イベント運営、デザイン)】

大橋 さえ子さん、久保 浩さん、向井 雪菜さん、藤山 美律さん、中西 萌さん、王 譽榮さん、
木元 花さん、岩崎 真子さん



中野 貴行 武田 祐輔 鈴木 のどか 佐々木 颯 鈴木 慶樹 石井 貴幸



金澤 鮎香 吉田 明子 越川 綾乃 仲原 菜月 濱田 朱莉

SNSでPiece of Syriaとつながる



【Facebook】 piece.of.syria/
【Instagram】 @piece.of.syria/
【Twitter】 @piece_of_syria
【Youtube】 PieceofSyria

サポーター限定!

サポーター限定
Facebook
コミュニティも
始めました

Check!!▶



シリア支援団体 Piece of Syria

Web: <http://piece-of-syria.org>

Mail: contact@piece-of-syria.org

〒530-0047 大阪市北区西天満5-4-13 ユリスト西天満602
(タエグラフィックス内) Piece of Syria事務所



活動報告書
2021年4月

شكراً

ありがとう。

みなさんのおかげで、
ようちえんをそつぎょうして、
いま、わたしは小学校に通っています。

あたたかなやさしさをとどけてくれて
とってもうれしいです!

ありがとう!



＼ 2020年度 活動のハイライト ／

シリア

国内避難民が集まる地域で どこからも支援が届いていない 幼稚園と小学校に教育を届ける

かつてシリアは教育レベルが高く大学まで学費が無料。ほぼ全ての子ども達が学校に行くことができました。しかし長引く戦争で教育を受けられない子ども達も。一人でも多くの子ども達が学べるように、継続的に支援を続けています。2020年からは新たに小学生も受け入れることができました！

図書館ができて
学校がもっと
楽しかったよ！



母国シリアの
言葉や文化も
学んでいるよ！



難民として生きるトルコで 必要な学力をつける補習校

隣国トルコで生活するシリアの子ども達は無料でトルコの学校に通えます。しかし、母国語であるアラビア語ではないトルコ語での授業についていけず中退する子ども達も。

そこでトルコ語の補習を行ない、公教育に戻れるような支援を行なっています。

トルコ

日本

オンラインイベントを実施し 「シリアの今と昔を伝える」

新型コロナ感染拡大を受けて、イベントをオンラインに切り替え、シリアや中東の魅力を伝えるイベントを企画しました。今まで話を聞く機会が少なかったシリア人や海外在住のゲストの話を、日本中・世界中の参加者に届けました。

歴史や文化、
スポーツなど
魅力も伝えています！



設立総会を
オンラインで
実施しました！



安定した支援ができるよう NPO法人化・組織強化を

シリアの戦争が10年と長期化し、空爆など悲惨なニュースは減るなか、シリアへの寄付は減少傾向にあります。一方でシリア経済の悪化で支援は今まで以上に必要です。状況が落ち着き、シリアの人たちが自立できるようになるまで、継続的な支援をできるよう、NPO法人となり、組織強化を実施しています。

現地パートナーNGO代表からのメッセージ

あなたと子ども達と一緒に作る平和な未来

ご支援をいただいた日本の皆様、本当にありがとうございます。もし皆さんに私の感じている感謝の気持ち全てをお伝えしようと思ったら、何時間かかるか、分からないほどです。

シリアの戦争はもう10年となりました。そして今も苦難は続いています。ここ2年ほどは空爆や武力紛争は落ち着きましたが、戦争に加えて新型コロナによって経済は大きく影響を受け、市民生活は今まで最も大変と言えるでしょう。一方で、シリアの現状を伝える報道が減ったことで、各国の支援やNGOの活動は徐々に減っています。しかし教育は待ってくれません。そして、教育を受けることは全ての子どもが持つべき権利です。

私たちが挑戦しているのは「未来の世代を創る」ことです。短期的なプロジェクトでは十分とは言えません。長期的な視点で考えなくてはならないのです。私たちは、学校や幼稚園という場所を作りたいのではありません。「未来の世代」を創ろうとしているのです。それには少なくとも10年という月日は必要です。

教育は国を作り直すために本当に重要な基礎になります。私は多くの海外の方と仕事をしていますが、日本の皆さまが特に、長期的な視野でシリアの教育に気をかけて下さっていると感じています。皆様が、継続的に支援をして下さっていることがとてもありがたいです。

皆さんが支えている生徒たちは、今は幼く小さいですが、いつか大人になった時に皆さんに会いに行くでしょう。それは、平和な未来が創られたということです。その時、「子ども達が未来を作った」のではなく、「日本の皆さんと子ども達が一緒に未来を作った」と言えるでしょう。あなたは、未来を作る架け橋になってくれているのです。本当に心の底から感謝しています。

A Little Help is Enough 創設者・代表 Education Without Boarder プロジェクトマネージャー Usama Ajjan

アレppo大学 英語学科卒業。在学中、日本語を学ぶ。
卒業後、小中高それぞれの学校で英語教師として働き、戦争開始後は教育支援団体【A Little Help is Enough】設立。
2013年よりトルコに避難し、シリア国内とトルコのシリア難民向けの教育支援NGO【Education Without Boarder】の教育プロジェクトマネージャーを兼務。2019年、トルコ市民権を獲得。日本に行き、華道を学ぶのが夢。



Piece of Syria代表からのメッセージ

「支援」から「観光案内」になる日を目指して

新型コロナ感染の猛威で皆さんも大変な中にも関わらず、ご支援を頂きまして、本当にありがとうございます。お陰さまで、シリアの子ども達が未来に希望を持てるような活動を実施できています！

私たちはどこからも支援がない場所に住むシリアの子ども達への教育支援をしています。ですが、本当の願いは「シリアをまた行きたい国にする」ことです。旅行先を考えると「ハワイか、パリか、アレppoか？」とシリアの街の名前が出てくる未来を夢見ています。戦争前のシリアは、治安が日本以上に良く、教育レベルも高く、歴史的な遺跡もたくさんある魅力的な国でした。そんなシリアに戻るための復興の基礎、未来作りの土台となる子ども達への支援を行なっております。いつか支援が不要になった際には、最高の思い出を持って帰ってもらえるようなシリアの旅に、皆さんをご案内いたします！その時まで、今しばらく、あなたのお力をお貸し頂けますと幸いです。

Piece of Syria 創設者・代表 中野貴行

2008-10年、青年海外協力隊・村落開発普及員としてシリア北部アレppo県マンベジ郡で母子保健プロジェクトに参画。2015年より中東・欧州10カ国にて難民となったシリアの人たちや支援団体の人たち100人以上に社会調査。最も支援が届きにくいシリア国内の教育支援を行なうため、2016年よりPiece of Syriaを立ち上げる。2020年よりJICAケニアで働く妻の随伴でナイロビ在住。



日本で「伝える」活動

中東やシリアを知る有料オンラインイベント

知っていただくと支援につながる

今まで全国各地で講演や写真展などのイベントを実施してきましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、イベントは全てオンラインで実施するようにしました。その結果、今までご参加が難しかった日本の地域だけでなく、ヨーロッパ・中東・アフリカ、南米など海外からもご参加いただく機会を作ることができました。またゲストにも、ふだん直接お話を聴くことが難しい海外で活躍する人たちが招くことができました。

最初に実施したのは、2020年5月「中東トークリレー」。パレーン、ヨルダン、エジプトからのゲストに中東の魅力を語っていただき、有料のイベントにも関わらず、430名もの方にご参加いただきました。



同年8～9月は全10回に渡ってシリアの料理・音楽・遺跡・サッカー・教育から難民支援の現場で活動に至るまで、幅広い範囲で「おうちからシリアを学べる旅」を企画し、こちらも有料のイベントでしたが、のべ816名の方にご参加いただきました。



この二つのイベントの収益で、トルコの補習校の2ヶ月分の運営費を支援することができました。今後も、「知ることが支援につながるイベント」を実施していきますので、ご参加、お待ちしております！



トルコのイズミール地震の際は、Piece of Syria学生メンバーが主催でイベントを実施し、被災者支援の寄付を集めました。



参加費で支援をしたトルコのシリア難民補習校の様子

Facebook live と Youtubeでの発信

かわいそうだからではなく、好きだから応援する

有料だけでなく、無料のオンラインイベントも定期開催しています。その一つが「オンラインシリアツアー」。Facebook Live、Youtubeでシリアを訪れた旅人、留学や青年海外協力隊としてシリアに滞在していた人たち、時にはシリアの人たちにも出演いただき、思い出や魅力について語っていただいています。「シリアのおもてなしって本当にすごいんだ！」「いつかこの遺跡に行ってみたい！」「...と聞くだけでシリアに行きたくなります。私たちが大事にしているのは「かわいそうだから」ではなく「好きだから」応援するという姿勢。シリアと聞くと「難民」や「戦争」をイメージする方が多いかと思いますが、ほんの10年前の2011年までは、平和で豊かな日常がそこにありました。

そんなシリアの日常を知ること、シリア身近を感じていただき、いつかシリアに行きたいなと思って頂ければ幸いです。



日本で「支える」活動

NPO法人化・組織強化の助成事業

力を合わせて継続的な支援ができる組織作りを



【助成】認定NPO法人サービスグラント(2020年8月～21年1月)
Panasonic NPO/NGOサポートファンド(2021年1月～)
SocialShip 2020(2021年1月～)

2011年3月にシリアで始まった戦争は、10年が経ちました。幸い空爆などの武力紛争は減っていますが、一方でメディアの注目度は下がり、シリアへの支援活動・寄付は減っているのが実情です。また、武器による戦争そのものが終わっても、支援が必要な状況はまだ続くでしょう。

「1年ごとのプロジェクト」として活動をしていた私たちですが、継続的な活動の必要性を感じ、任意団体からNPO法人となることを決めて、2020年8月にNPO法人設立総会を行いました。NPO法人となる見込みができたことで、さまざまな助成事業を受けることができました。

専門性を持った社会人のチームから課題の発見とその解決をするためのマニュアルを作成いただいたり、外部のコンサルタントの方に会議に入っていたりNPO法人としての活動の方向性を整えていただいたり、ワークショップを通じてスタッフ一人ひとりの能力の向上の機会をいただいています。

2020年からは、イベントだけでなく会議もオンラインで開催するようになり、大阪・東京・愛知・台湾・ケニア・イギリス・トルコなどスタッフが世界各地からつながって、活動を進めることができています。オンラインでの組織運営は手探りのことも多いですが、「早く行きたければ一人で行け。遠くに行きたければ皆で行け」というアフリカのことわざがありますように、模索しながらも、皆の力を合わせながら活動を続けています。今後もSNSなどで是非わたしたちの成長を見守って頂ければ、また願わくば仲間としてお力を貸していただければ嬉しく思います。

支援者の方に聞きました！Piece of Syriaの魅力って？

- ①信頼性：ちゃんと届いているという実感が持てる。現地の動画や写真がいっぱい見れる報告会。
- ②参加型：一緒に楽しもうという姿勢。「助けてあげる」ではなく、同じ目線で活動をしている。
- ③人の温かさ：スタッフの皆さんの人柄が感じられる。課題ではなく魅力を伝えるという姿勢に共感。

(長期で支援してくださっている方達と「ファンミーティング」を実施し、ヒアリング致しました)

／ シリア国内への教育支援 ／

どこからも支援が届かない場所に教育を届ける

●400人の子ども達に教育、17人の先生達にお給料を

シリア北部アレッポ県郊外にある、【A Little Help is Enough】が運営する400人規模のZilal幼稚園・小学校を支援しています。

支援先の地域では、戦争による影響で公共サービスが届いておらず、先生達のお給料が支払われていませんでした。その状態が続けば、先生達が仕事を辞めてしまい、学校が閉鎖されるかもしれません。2016年からPiece of Syriaは継続的に先生達の給与を届けています。「それは先生だけではなく先生の家族を支えることにもなっている」と現地NGO代表が教えてくれました。幼稚園と小学校の2つの授業を担当するため、先生の給与も75\$から100\$に増額しました。

生徒は3～15歳。授業内容は、アラビア語・英語・算数・理科・社会・アクティビティ。教育の基礎を学ぶだけでなく、学校に行く習慣、心のケアができる場所として、とても重要な価値があります。



●公的な幼稚園として認可を受ける

支援先の幼稚園は、その教育の質の高さを現地政府に認められて、公的な幼稚園として認可を受けました。



2020年の夏に行なわれた卒園式の様子

●教室を増設し、小学校を併設

より多くの子ども達を受け入れるために、また小学校でも高い質の教育を受けたいという保護者からのリクエストもあり、これらに応えるために皆さんのご支援を元に教室を増設して、午前中は幼稚園、午後は小学校の授業を行なえるようになりました。

増設したアクティビティルーム・図書館の中では、子ども達がお絵描きや折り紙などを行ない、心のケアを行なっています。



ご支援者様がお名前を付けてくださった「ブトゥーレ図書館」にて

●氷点下にもなる冬に、ストーブ用の灯油を

シリアの冬は非常に寒く、教室が寒いと子ども達が「寒いから行きたくない」と幼稚園・学校に来なくなることもあります。

Zilal幼稚園・小学校に加えて、近くにある400人規模の小学校にもストーブ用の灯油を届けました。



●新型コロナ対策の実施



先生からの メッセージ

あなたが蒔いた希望の種

子ども達に夢を聞くと、お医者さん、先生、エンジニアという答えが返ってくる事が多いです。理由を尋ねると、お医者さんになりたいのは、怪我をした人たちを治したいから。先生になりたいのは、未来の子ども達みんなに教育を届けたいから。エンジニアになりたい人は、戦争で壊れてしまった建物を直してあげたいから、と答えてくれます。

子ども達は戦争を理解しているのです。シリアの復興に自分も関わりたいと願い、こうした夢を持つのです。

あなたの支援は希望の種を蒔いてくださいました。あなたが支援をしてくださった子ども達は、いつか花になり、あなたの寛大さという香りを世界に届けるでしょう。あなたの継続的な支援で、人間の思いやりには限界がないことを実感しました。

子ども達一人ひとりの笑顔は、あなたの支援のおかげです。何千回お礼をお伝えしても足りませんが、心からの感謝をお伝えいたします。

Najwa Aughrli先生 (ZILAL幼稚園・小学校 校長)



Piece of Syria活動報告会 「あなたが届けた希望」

現地パートナーNGOの熱い想い、子ども達や先生からの感謝の声を是非、こちらの報告会動画からご視聴いただけますと幸いです！



トルコのシリア難民への教育支援

トルコの学校に戻るための補習校支援

90人の子ども達に教育を、8人の先生達にお給料を

トルコは、世界で最もシリア人を受け入れている国です。

シリアの戦争が始まった当初は母国語であるアラビア語での授業も受けることができていたのですが、戦争の長期化により、アラビア語の授業が禁止され、トルコ人の生徒と一緒にトルコ語の教育を受けることが義務付けられました。家で話している母国語のアラビア語と異なるトルコ語での授業についていけなかったり、難民に対するイジメなどを理由に学校に通わせたくない親、通いたくない子ども達も残念ながら出てきています。

そうした状況に対応するために、トルコのNGO【Education Without Border】が運営している補習校では、トルコ語の授業や地域のトルコ人の子ども達との交流の場を作っています。また、トルコ政府から認可を受けてアラビア語の授業も実施でき、トルコ語・英語・算数を教えています。



先生からの
メッセージ

子ども達の笑顔という成果

皆さんのおかげで、補習校が運営することができています。トルコ語の学習が追いつかずに教育を中断していた生徒たちを受け入れることができ、勉強の機会を提供することができました。

補習校への継続的なご支援に心より感謝申し上げます。

Khitam Hamama先生



オンラインイベント収益とマンスリー支援で

Piece of Syriaはシリア国内の教育支援を中心としていたため、今までは補習校の運営費支援を行っていませんでした。しかし、新型コロナの影響で経済が悪化し、補習校を運営するNGOが資金不足に陥って、このままでは補習校が閉鎖される可能性が出てきたことを受けて、2020年9月より運営費の支援を始めました。

クラウドファンディングは全てシリア国内への教育支援のために使っていたので、「中東トークリレー」「シリアオンラインスタディツアー」の収益で2ヶ月分の運営費をまかしました。

その後、トルコがロックダウンになり、公立学校と同様に補習校も休校になりました。1月はオンラインでの授業、2月からは対面の授業が再開しました。再開後の運営費はマンスリーの寄付から、先生の給与、水道光熱費、筆記用具など運営費に必要な金額を届けさせていただいています。



新型コロナ対策をしながら授業を再開

トルコのシリア難民事情



戦争前はシリアの人口は2139万人でしたが、2011年に戦争が始まり、国内避難民は約620万人、国外に逃れた難民は559万人にもなります。その難民のうち365万人はトルコで生活しています。

トルコに住むシリア人は、ID登録し、無料で教育・医療を受けることができますが、難民ではなく「ゲスト」と呼ばれており、あくまで一時的な滞在だと位置付けられています。難民キャンプではなく、仕事をして家賃を払って生活をしており、仕事がないと非常に生活は厳しいです。また政権交代などでシリアに強制帰国させられるリスクがあり、不安定な立場にあります。

皆さんとだから届けられる支援

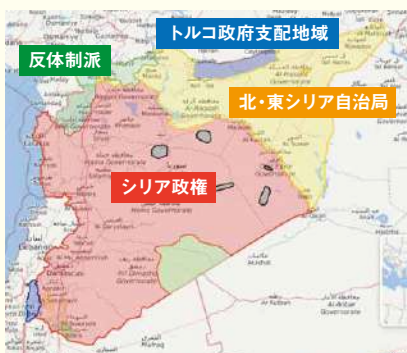
2011年3月に始まったとされるシリアの戦争は非常に複雑です。この10年間、下記の勢力地図にあるように、「内戦」とは言い切れない、非常に複雑な他国の干渉が入り組んでいます（その詳細について、Piece of SyriaのYoutubeチャンネルにて、シリア政治専門の青山弘之教授にご解説いただいておりますので、是非ご視聴くださいませ）。

Piece of Syriaは政治的・宗教的な意図に与することなく、人道的な立場で、最も支援が必要な場所に支援を届けることを大切にしています。私たちがシリア国内で支援している幼稚園・小学校が、アレッポ郊外の反政府派・トルコ政府の支配地域にあります。その理由は、シリア政府からの公共サービスを提供されない地域で、かつ国際組織や大きなNGOが政治的な理由で支援を届けにくい地域だからです。お一人お一人からのご寄付だからこそ、この地域に教育を届けることができています。

支援をしている学校では、シリアの戦争をどうやって伝えているのでしょうか？その質問を尋ねると「悪い政権と悪い反体制派があり、私たちは両方に興味がないということです」という答えでした。戦争は、正義と悪の戦いではない、と私たちも考えます。物事を単純な善悪の二項対立にしまい、「一方を排除すれば平和が訪れる」という考えは、戦争を生み出す土台となりかねません。だからこそ、私たちが支援するシリアの人たちが話す「私たちの武器はマシンガンではなく、教育だ」という考えに共感し、活動を共にしています。

Piece of Syriaの「Piece」には「ひとかけらをひとつなぎに」という想いを込めています。一人ひとりの力は小さいかも知れませんが、パズルのピースのように力を合わせることで、平和の「Peace」を実現する大きな力になると信じています。

あなたが力を貸して下さったおかげで、希望を、未来を届ける活動ができています。本当に、本当にありがとうございます。



支配地域の分類 Map of Syrian Civil War <https://syria.liveuamap.com/>



2020年度 収支

収入

クラウドファンディング (READYFOR手数料を除く)	305万円
マンスリー・単発のご支援	63万円
イベント収益・物販	24万円

支出

シリア活動費	301万円
トルコ活動費	73万円
国内活動費	18万円
(郵送代・印刷費・システム手数料など)	

(2020年3月～2021年3月まで。NPO法人となる2021年度より9月決算となります)